

Contents

難しさに向かうこと (01) 長期服薬者の難しさ	1
JASE「実践のための性教育セミナー」報告	2
有森さん来たり	3
活動報告	4
お知らせ	6
雑誌紹介「季刊にじ」	6

難しさに向かうこと

HIV/AIDSをめぐる状況は日々大きく変化している。それに伴い、難しさも形を変えていく。今回からシリーズで、様々な立場にある人がどう難しさに向き合っているのかを取り上げていく。第一回は、HIV陽性者が向き合う難しさである。もちろん、ある個人に起こったことが、すべてのHIV陽性者に当てはまる訳ではない。しかし、今後、長期的な療養生活における服薬継続の問題がより重要なテーマになることは間違いない。

(01) 長期服薬者の難しさ

“飲む”“飲まない”をもう一度考える

矢島 嵩 (HIV+)

昨年末をもって抗HIV薬の服用を中止した。服薬を始めてから、まる6年である。今まで頑張ってきた自分に、そろそろご褒美が必要だ。なるべく長いパケーションになりますように！

1996年に服薬を開始した当初から、すぐにウィルス量は検出限界以下になり、やがてCD4も300から500～600前後に増え、安定した状態を持続してきた。元来の性格からか、6年間ほぼ100%服薬をこなしてきた。「優等生」である。「治療はうまくいっている。パーフェクトだ。」主治医は言う。僕もそう思っていた。

しかし、実のところ、一年ほど前から、不眠と耳鳴りが続き、気分がすぐれない。頬もこけたし、皮膚のトラブルも多い。通常の通院に加えて、総合病院の耳鼻科や精神科、皮膚科など他科に通うのも大変である。有給休暇も底をついた。そして結局のところ不定愁訴などと言われてお蔵入り。仕事のストレスなのか、加齢によるものなのか、病気の所為か、副作用なのか... はっきりした因果関係は分からない。けれども、なんだか調子が良くない。これが僕にとっての事実である。

臨床家が、生死に直結してないような愁訴を積み上げてエビデンス

にするほどの余裕はないのだろう。リポジストロフィーも長いこと美容上の問題として放置されてきたという印象が強かった。僕にとって優先的な問題は、腕が細くなってしまったことや、顔のしわが増えたことであって、血糖値や中性脂肪値ではない。医学的データという、近い将来や遠い将来の健康にかかわる指標は、今を生きる患者にとって

実感を伴うものではない。むしろ、美容上の問題として一蹴されてきたことや、根拠のない不快感としてカルテにも書き込まれてこなかったことこそが切迫した問題である。

セルフコントロールをして服薬管理をしてきたのは、医師でもナースでもなく、自分自身だという自負がある。もちろん、貴重なアドバイスや、暖かいサポートを受けてきた。けれども、毎日毎日、服薬治療を実行してきたのは患者である。夏休みもないし、3交代もない。24時間待機の治療スタッフは患者自身。自分でも気づかぬうちに日々抑圧されてきたのだろうか。

僕のように、プロテアーゼ阻害剤の登場に小躍りして飛びついた時代の患者の多くは、すでに数年の服薬を経験している。当時「HIVは慢性疾患になった」と沸き立っていた。多少のQOLを犠牲にしても延命はできる、だから早く強くウィルスをたたけ！の大合唱だった。しかし、慢性疾患の名に値する長期的戦略は乏しかった。それも仕方なしではあったが...

ここ2、3年の間に長期的副作用が問題になったり、長期滞留型の薬剤が登場したり、ガイドラインの治療開始の目安が改訂されたりした。以前よりずっと選択肢が増え、服薬するにしても、待つにしても、慌てずにはすむことが多くなった。一方、不透明なリスクの存在は一層大きく感じる。そんな時代の変化のなかで、長期的な視野を持ってストーリー展開をしていくだけの、自分自身のスタンスを持ち続ける勇気が必要なのではないかと思っている。

今回の治療中断は、実はさほど戦略的だとも思っていないのだが、医療者の反応はおおむね好意的だった。一方、陽性者の友人たちは、「勇気あるネ、私には出来ないナ」とか「せっかく効いていたのにもったいない」といったものから、「それって緩慢な自殺？」などという反応まであって、少々驚いた。だが、理解できなくはない。不安な気持ちと、前向きな意志を、抱き合わせにして生きていくというのが、陽性者として身につけた、生活の知恵だから。

QOL (Quality Of Life / 生活の質)



JASE「実践のための性教育セミナー」報告

去る2月1日(土)、財団法人日本性教育協会(JASE)主催、ぷれいす東京企画・実施による「実践のための性教育セミナー」が、日本性教育協会セミナールームにおいて開催されました。

第1部は「セクシャルヘルスと保健行動」をキーワードに、徐淑子さんと池上代表を講師とした理論編。

例えば、コンドームを使ったほうがいいと頭ではわかっていても行動につながらない要因は何か。徐さんが保健行動調査のデータを使って説明。では、実際に行動につなげるためには、どう支援していったらいいのか。ぷれいす東京の研究成果もまじえて、池上さんが話を展開。



徐さんの講義・そもそも保健行動とは…。皆さん知識を得ようと真剣。

第2部は「セックスがポジティブとユーモアの実践」をキーワードに、ぷれいす東京の若者グループ、ぷれいす PEP によるワークショップ。午前中の講義をベースに、40名の参加者+ぷれいす PEPのメンバー6名、そして池上さん、徐さん、生島さんも加わって、頭とからだを使って楽しみながらのワークでした。(報告 原田 玲子)

プログラム

第1部 10:30 ~ 12:30

講義1

「保健行動学の視点と日本の若者の保健行動分析」

徐 淑子(新潟県立看護大学)

講義2

「知識、モラル教育から保健行動研究による介入の時代へ」

池上千寿子(ぷれいす東京代表)

第2部 13:30 ~ 16:30

ぷれいす pep によるワークショップ

パート1【“教える”ために】

- ・アイスブレイキング & グループ分け
- ・コンドームデモ「選べる・楽しいコンドーム」
- ・コンドームに触ってみよう
- ・小グループディスカッション

マイフェミィを生徒にどうしたら伝えられるか

パート2【自分の性に対する捉え方に気づいてみよう】

- ・グラドルルール
- (安全な場作りの大切さ、どう作るかの体験)

- ・リスクアセスメント
(自分や他の人のガイドラインを知る)
- ・体操
(「セックス」と「からだ」と「健康」を結びつけて考える)
- ・コンドーム風船パレーボール
(性を語る、コンドームの強度体験)

テーマ:

セクシーだと思う有名人
どうしてもセックスを連想してしまう食べ物
色気を感じる身体の部位
セックスができると思う場所
セーフターセックスの方法

- ・ぷれいす PEPのQ&A
- ・振り返りタイム(今日の1日はどんな経験でしたか?)

参加者の声(アンケートより)

- ・楽しい時間でした。性に対する自分の中のイメージがポジティブに変化したと思います。性を語る時、ユーモアと明るさが大事だと気づきました。
- ・面白いプログラムだった。性教育をするのにちょっと違ったやり方が考え出せそうです。
- ・性行動と体を動かす行為は違うと思う。体操セックスからだ・健康・の今後の役割をもう一度検討して欲しい
- ・色々な現場で性の健康について実践している人たちと話したり会えたことはこれからのステップアップにつなげていきたい。自分のセクシャリティーに気付くと共に、色々な方法で人に性を伝えるヒントをいただき、ありがとうございました。
- ・テーマの性質上難しいかもしれませんが、参加者の方々の情報がもう少し共有できればよかったです。性教育実践の具体的な話とか、性教育についてのセミナーへどうして参加しようと思ったのか等。様々なバックグラウンドの人が来ていらしたのでもう少しそれぞれの話の聞きたいと思いました。



おなじみ100円ソックスを利用したゴムつけパフォーマンス。代々女性に伝承されていくとか。

主催者より

何か変だ。こんな変な世界は、いい加減によしにしたいものだ。それは、ほとんどの人が必要だという。社会的にも、必要とされている。でも、関係者の過半数が、「教える自信がない」という。何十年経っても、その状況が変わらない。周りで、わいわい騒ぐだけで、みんな逃げ腰。たまに熱心な人がいて、努力すると、変な政治屋が出



参加者が書いた行為の感染の可能性を話し合う。これってどういう意味だろう？

てきて、「過激すぎる」とクレームを付ける。自らは何の努力もしないで、騒ぎ立てるだけ。それに一部の新聞や雑誌が悪のりする。それが、「性教育」だ。

「性」ってそんなにこそこそと隠さなければいけないものなのでしょうか。教える自信がなければ、自信をつけねばいい。そのために、必要な訓練をすればいい。

ぶれいす東京の主張するキーワードは、「セクシャルヘルスと保健行動」プラス「セックスポジティブとユーモア」。科学的視点を持ちながら、しかもユーモアのあるセミナーをめざしたものだ。自分たちで、性教育のパラダイムを変えていこうという、画期的なものだと思う。

この熱気を教育現場に伝えたい。今年は、もっと回数を増やして、共同開催します。ご期待ください。

(財団法人 日本性教育協会 事務局長 畑 芳夫)

スタッフ感想

ぶ PEPの活動は同年代の高校生など若者が対象ですが、この日はいつもとは違い、教育・保健関係の「玄人」の皆さんに向けてプログラムを紹介しました。

前半のグループディスカッション(テーマ: どうすればマイフェミを普及できるか)は、とても熱いものとなりました。性教育に対して皆さんがそれぞれの現場で感じた話はとても具体的で、お互いに刺激になったと思われます。私自身も、とても勉強になりました。しかしマイフェミ普及には少々長い道のりがあるようですね。

後半では、リスクアセスメント、体操(ラジオ体操の音楽に合わせて激しくセクシー?に踊る)、コンドーム風船バレーボール(ボールに触る時にテーマの言葉を言う。例:セックスをしてみたい場所)などの参加型プログラムを実施しました。皆さんとても乗り気。さすが玄人です。バレーボールでは、参加者チームとぶ PEPチームで対決し、これまた熱い闘いが繰り広げられました。恥ずかしがる暇もなく楽しい雰囲気の中で性に関する言葉が飛び交うバレーボールは、なかなか好評だったようです。全体的にもプログラムに共感して下さる意見が多く、中には「いま日本でこれ以上のものを探すのは難しいくらいレベルが高い」とまで言ってくれた方もいます(言い過ぎ?でも超感激しました)。今回のようなプログラムを通して、一人でも多くの人にぶ PEPのコンセプトが広まっていけば良いと思います。(キャミー)



できる範囲でセクシーポーズ! みんなでやれば恥ずかしくない!!

有森さん来たり

白坂ゆき

1月明けてすぐの13日、ぶれいすは普段とは質の違う盛り上がりを見せていました。「初めて自分で自分を誉めたいと思いま



テレメンタリーというテレ朝の取材。ホンモノの有森さんだ~

す」の名言の主、92年バルセロナオリンピック銀メダリストの有森裕子さんが、テレビ取材のために、事務所を訪れたからです。彼女は現在、国連人口基金親善大使でカンボジアのエイズ問題に取り組んでいて、日本の現状を知りたいとぶれいすに来られたのでした。

彼女を迎え撃つは、ぶれいすの若者グループぶ PEPです。

我々、有森さんとカメラに舞い上がり、ミーハー丸出し状態。しかし、予防メッセージを伝える時の苦心、工夫等を話しあっていく中で、普段の落ち着きを取り戻しました。有森さんは、ぶ PEPの、性を明るく楽しく語る実践、コンドームイメージの変容をねらったデモンストレーション、ジェンダーやセクシュアリティに配慮したプログラムに、高い関心を示してくださっていました。

実際、有森さんにぶ PEPの女性メンバーに代々受け継がれるコンドームデモンストレーションを紹介すると「ちんこ」「まんこ」と言っているのを聞いて少し戸惑っておられるようでした。しかし、パッチリ伝授完了。その様子はテレビカメラにもきっちり記録され、オンエアされるか楽しみです。

取材途中の食事を、近所のファミリーレストランで、皆で楽しくご一緒させていただきました。カンボジアで義足を送る運動を続けていた彼女が、なぜ親善大使になったのかを聞くと、「現地の学校や病院で子供達の話聞くうちに、いろいろな問題が繋がっていると感じたから。」と答えて下さいました。「それぞれの活動が別々に存在するのではなく、一緒にできることもある」とも。その言葉どおり、有森さんは、ぶれいすがCAFEのコンドームイベントを計画している事を話すと、「その時にはぜひ私も応援に駆けつけます」と協力の約束をしてくださいました。実りある楽しい時間でした。

ぶれいすのコンドームCAFEイベント構想

ぶれいす10周年を記念して実現へ向けて計画を進めているイベント。コンドームをフランクに日常グッズとして定着させるために考案中。興味のある方は、声をかけてね。

活動報告

各部門より

● ホットライン

- 11月
 8日(金) 東京都電話相談連絡会(出席2名)
 17日(日) スタッフミーティング(出席8名)
 ケースカンファレンス
 18日(月) 東京エイズ相談連絡会
 「HIV/AIDS 事例への相談対応について」(参加2名)
- 12月
 15日(日) HL 部門専門相談員研修(出席2名)
 スタッフミーティング(出席9名)
 自主勉強会「セックスワーカーに見る、意識と現状」
 24日(火) 東京都電話相談連絡会(出席3名)
- 2003年1月
 10日(金) 東京都電話相談連絡会(出席3名)
 19日(日) スタッフミーティング(出席20名)
 ホットライン部門新年会
 20日(月) 東京エイズ相談連絡会
 「感染者を支える人々への援助」
 (参加3名)
 26日(日) 世話人会ミーティング(出席5名)
- 2月
 14日(金) 東京都電話相談連絡会(出席3名)
 16日(日) 世話人会ミーティング(出席7名)
 スタッフミーティング(出席14名)
 ケースカンファレンス

相談概要

ぶれいす東京エイズ電話相談

	日数	総時間	相談員数
11月	4日間	16時間	のべ12人
12月	4日間	16時間	のべ12人
1月	4日間	16時間	のべ12人
2月	4日間	16時間	のべ12人

	相談件数	(男性)	女性	陽性者)	1日平均
11月	28件	(21件)	7件	0件)	約7.0件
12月	29件	(25件)	4件	1件)	約7.3件
1月	31件	(24件)	7件	0件)	約7.8件
2月	28件	(23件)	5件	1件)	約7.0件

東京都夜間・休日電話相談 (委託)

	日数	総時間	相談員数
11月	12日間	36時間	のべ35人
12月	11日間	33時間	のべ29人
1月	12日間	36時間	のべ38人
2月	12日間	36時間	のべ37人

	相談件数	(男性)	女性	陽性者)	1日平均
11月	219件	(192件)	27件	0件)	約18.3件
12月	197件	(161件)	36件	2件)	約17.9件
1月	209件	(174件)	35件	0件)	約17.4件
2月	254件	(211件)	43件	2件)	約21.2件

早いもので、半年前の研修で参加してきた新人スタッフ達が、今や相談業務の主力となって活躍してくれています。それに触発されてか、部門全体にも活気がでてきてとても充実した空気が嬉しい今日この頃です。

● ぶ PEP

ピアプログラム実施状況

	派遣先	人数	ぶ	PEPメンバー
11月6日	東京学館浦安高校	30名		3名
11月14日	木更津保健所管内小中学校養護教諭	92名		3名
11月22日	宮崎県延岡工業高校	200名		2名
12月12日	東京都シンポジウム			7名

2003年
 3月17日 広尾高校 40名 5人
 3月19日 八王子工業高校 210名 6名
 3月24日 竹台高校講演 200名 1人

アウトリーチ 他

	イベント名	ぶ	PEPメンバー
11月2・3日	聖路加看護大学の文化祭協力		3名
11月23日	WAKAI イベント協力		4名
12月7日	街頭キャンペーン@立川		4名
	街頭キャンペーン@吉祥寺		5名

2003年

3月30日 まるんずナイト

ぶ PEP ミーティング実施状況

11月7日	定期ミーティング&ビデオ撮影
11月19日	アウトリーチミーティング
11月22日	ミーティング
11月26日	ミーティング&都民ホール下見
12月2日	吉祥寺アウトリーチ現場下見
12月3日	アウトリーチミーティング
12月5日	定期ミーティング
12月7日	シンポジウムリハーサル
12月23日	ぶ PEP 年末パーティー

2003年

1月11日 ぶ PEP ミーティング & 新年会
 1月13日 有森さん交流会
 2月6日 定期ミーティング
 3月6日 定期ミーティング

● バディ

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

(第1木曜 11:00 ~ 第3木曜 18:30 ~)

11/14	2人	11/28	5人
12/5	5人	12/19	7人
1/9	6人	1/23	8人
2/6	5人	2/20	6人

利用者数 (2002/11 ~ 2003/2)

6カ所の病院に通院中、もしくは入院中の14名の方に18名のバディスタッフを派遣。

新規派遣および調整による追加派遣

外出の付き添い・話し相手、入院中の本人とのコミュニケーション、外出介助、入院中の買い物 計4件

訪問先 (2002/2月末現在)

在宅訪問： 10
病室訪問： 3
在宅への電話のみ： 1

派遣修了
なし

パディ担当中のスタッフ構成（2月末現在）
女性12名 男性6名

パディの現場から
新規の派遣と、派遣調整により派遣人数が増えています。この新規派遣には、11月の研修終了後のパディも既に加えられ、続々と活動を始めました。

最近の傾向として、身体に障害を持つ方からの在宅への定期的な訪問依頼が増えています。出来る範囲でスタッフの調整をとりながら、必要なニーズに対し、応じていくことができればと思います。

ネスト

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)
11月	26日	121名	(6名)
12月	23日	91名	(5名)
1月	24日	95名	(5名)
2月	24日	106名	(9名)

ピア・ミーティング/ミーティング

- ・新人ミーティング第10期(3名)
11/16 11/23 12/7 12/21(修了)
- ・新人ミーティング第11期(6名)
2/7 2/21
- ・PGM・ファシリテーター・ミーティング 11/4 12/27
- ・陰性パートナー・ミーティング
11/9 12/7 1/11 2/8
- ・ミドル・ミーティング 11/9 12/7 1/11 2/8
- ・子育てミーティング 11/18
- ・結婚しているゲイ・バイセクシュアルの会 11/22
- ・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会) 11/22
- ・カップル交流会第2回 1/5
- ・web NEST ミーティング 1/8 1/17 2/14

ネスト・プログラム

11/16 ネスト庵秋のお茶席(17名)
12/3 稲田頼太郎博士と話す(10名)
12/21 ネスト年末パーティ(25名)

ネスト年末パーティ

12/21(土)の午後、冷たい雨が降りしきるあいにくの天候にもかかわらず、25名の方+スタッフ4名に池上さんも参加して、ネスト恒例の年末パーティーが開かれました。

池上さんの乾杯を皮切りに、宴もたけなわ、ネストは暖房要らずのにぎやかさでした。そして締めは今年が目玉、日本舞踊です。新年を前におめでたい演目を披露していただき、みんなで見事な踊りを堪能しました。

日本舞踊を踊ってくださった方、お手伝いをしてくださった方々、どうもありがとうございました。

Gay Friends for AIDS

Gフレでは、相談員研修を5月3日に実施予定。今後は電話以外の相談についても検討中。

ギラギラ真夏の8月10日にイベント開催決定

昨年のゲイナビに続く、Gフレが総力をかけてお送りする真夏のイベント。内容はマル秘ですが、ギラギラ真夏を乗り切るのに必要な知識とパワーが得られます。

2003年8月10日(日)14:00~(予定)
新宿区立文化センター小ホール

ゲイ・バイセクシュアルの人を対象にした
LIVING TOGETHER キャンペーン

希望者にHIV陽性者や、パートナー、家族などの手記を掲載した小冊子を郵送します。全国から感想がぞくぞく。



小冊子の表紙

「写真は良い!! 中の文章も、わかりやすくして良かった。確実にイメージが変わった。ただ、手記の人のシチュエーションがびみょうに分かりづらいのがあった。」「HIVというものがいい意味で身近で、きちんと理解があれば何とかなるものであるということが分かった。」「貴重な小冊子、大切に保管して活用いたします。」「何かの折々に小冊子とゴムケースをささやかなプレゼントとして友達に配ってみようかなと考えていました。」「色々な人生観が感じられますけれども、やっぱり根本的には自分の事は自分で是非守るべきだと思います。少しの快樂の為に許すと後で後悔しても遅いと思います。自分に勝つ事が一番です。」「正直、ここまで治療が進んでいるとは思いませんでした。AIDS=「死」そういう恐怖を抱えながらもSEXする自分。田舎で妻帯者、もし自分がHIV+となったら、絶えず不安を抱きながら、それでもたまにサウナへ行く自分。本当は寂しさ、人恋しさを紛らわせてるんだと。」「真面目なQ&Aだけの小冊子はあまり読みたい...とは思いますが、デザインや写真があるだけでグッと読みごたえがありました。Q&AはHIVをよく知らない僕でもすごく分かりやすかったです。」

トとして友達に配ってみようかなと考えていました。」「色々な人生観が感じられますけれども、やっぱり根本的には自分の事は自分で是非守るべきだと思います。少しの快樂の為に許すと後で後悔しても遅いと思います。自分に勝つ事が一番です。」「正直、ここまで治療が進んでいるとは思いませんでした。AIDS=「死」そういう恐怖を抱えながらもSEXする自分。田舎で妻帯者、もし自分がHIV+となったら、絶えず不安を抱きながら、それでもたまにサウナへ行く自分。本当は寂しさ、人恋しさを紛らわせてるんだと。」「真面目なQ&Aだけの小冊子はあまり読みたい...とは思いますが、デザインや写真があるだけでグッと読みごたえがありました。Q&AはHIVをよく知らない僕でもすごく分かりやすかったです。」

・入手法

<http://ptokyo.gender.ne.jp/> をチェック。
今後はゲイパーやハッテン場にて宣伝する予定。
協力店募集中です。連絡は: gf@ptokyo.com

Gay Friends for AIDS 電話相談

11月	稼働日4日	10件	(平均2.5件)
12月	稼働日4日	6件	(平均1.5件)
1月	稼働日4日	4件	(平均1.0件)
2月	稼働日4日	3件	(平均0.75件)

HIV陽性者への相談サービス

相談実績

2002年度	11月	12月	1月	2月
電話による相談	39	25	35	47
面談による相談	8	25	18	31
E-mailによる相談	173	37	80	65
うち新規相談	12	11	15	13

新規相談者の情報入手経路(11~2月集計)51人

- ・インターネット 20人
- ・医療従事者 11人
- ・電話相談からの紹介 6人
- ・知人の紹介 4人
- ・保健所からの紹介 3人
- ・検査所や病院で印刷物入手 3人
- ・他のNPOからの紹介 2人
- ・不明 2人

まとめ

インターネットを通じて情報を入手する、自立的なアプローチが増えている。東京以外の地域からのアクセスも増えている。地域の医療サービスに対する不安が主なテーマになっている。

お知らせ

特定非営利活動法人ぷれいす東京 第3回総会のお知らせ

ぷれいす東京は、1994年に高田馬場で産声をあげ、今年で数えて10年目の春を迎えました。また、2000年には特定非営利活動法人としての法人格を取得し、はやくも3度目の総会を迎えようとしております。

下記のとおり2002年度の総会を開催いたします。皆様にはぜひご出席くださいますようご案内申し上げます。

ぷれいす東京総会

日時：2003年5月31日(土) 午後2時～3時

場所：新宿区立消費生活センター第一会議室
高田馬場4-10-2(戸山口より徒歩2分)

内容：2002年度 活動報告及び決算の承認
2003年度 活動計画の承認

活動会員・賛助会員の皆様も総会にご出席いただけます。総会の議決に参加できるのは正会員のみになりますので、ご了承ください。

当日の連絡は下記の携帯までお願いします。

ぷれいす東京携帯電話

090-6310-8981(昼12:00～)

当日、ネストはお休みとさせていただきます。

総会后、懇親会を開催します。どなたでも参加可能です。

詳細は、ホームページ等でご確認ください。

新規ボランティアスタッフ合同研修のお知らせ

昨年に引き続き、ぷれいす東京の活動に参加・協力していただける方を対象とした合同研修を行います。7月上旬にオリエンテーションを開催し、7～8月の日曜日(7/21、7/27、8/3)に3回にわたり研修を行う予定です。活動に参加してみたい方、ぷれいす東京のスタッフとして登録したけれど研修がまだの方は、ぜひこの機会にご参加ください。参加ご希望の方は、事務局までご連絡をお願いいたします。詳細が決まり次第、お知らせいたします。

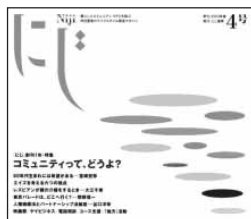
募集スタッフ

- (1) 電話相談の相談員
- (2) パディ活動スタッフ
- (3) 若者向け予防啓発活動「ぷ PEPのメンバー」
- (4) webやパンフレットのデザイナー
- (5) グループワーク・ファシリテーター 等

問い合わせ先 ぷれいす東京事務所

E-mail info@ptokyo.com

電話 03-3361-8964(月～金12:00～17:00)



雑誌紹介

季刊 にじ

にじ書房 URL <http://www.nijishobo.co.jp>

同性愛者もそうでない人も、ぜひ手にとっていただきたい一冊である。

昨日、たまたま立ち寄った紀伊国屋書店、リブロなどにも、堂々と書棚に並んでいた。

創刊以来この1年間で、すでに4号が発刊されている。暮らしとコミュニティ、NPOを結ぶ、同性愛者のライフスタイル創造マガジンとある。海外には、ADVOCATEという老舗雑誌があり、売り文句としては「ゲイやレズビアンへの生き方に関するニュースを当事者ならではの視点で伝えるNEWSマガジン」となっている。ぜひ、「にじ」もそれに続いて欲しいとエールをおくる。

取材のテーマも、HIVに関心がある人にも役立つ生きた情報が満載である。

「入院や手術には、同性パートナーのサインでもOK？」

「都営住宅って、同性カップルでも申し込めるの？」

「HIVに感染したら、どんな治療を受けるんだろう」

編集長の永易(ナガヤス)さんは出版業界からの脱サラで、虹を生み出すために、一人で会社を立ち上げた。彼の決意は半端ではない。なんせ、ネット上で公開されている昨年度の決算報告をみれば一目瞭然。早くバイトをしなくてもいい日があればと願う。

(ぷれいす東京相談員 生島嗣)

編集後記

・またもや、ぎゅーっとつめこんだ号とあいなりました。3ページ「ホンモノの有森さん」だけでも、部分アップで再掲をば。(サトー)



・遅れにおくれた38号、いかがだったでしょうか。難しさと向き合う新シリーズは今後、様々な切り口でお届けする予定です。皆様からの要望があれば、ぜひお知らせください。(生島)

編集・発行: ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304

TEL: 03-3361-8964(月-金12:00～19:00)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: info@ptokyo.com

ぷれいす東京HP: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://ptokyo.gender.ne.jp/>

web NEST: <http://www.jade.dti.ne.jp/nest/>

Sexual Health: <http://shw.ptokyo.com>